

# 腹腔鏡内視鏡

## 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery

第18回 2018年10月31日

■特別講演	わがまま上等！ 工学は臨床のお役に立ちます。～医工連携拠点より～ "I'm not scared, bring it on!" Your clinical activities can be well-served with engineering. -- Medicine-engineering collaboration --
-------	--

代表演者：藤澤彩乃先生（東京大学大学院）

**Speaker: Fujisawa Ayano, Assistant Professor, Medical Technologies Evaluation Laboratory, Department of Bioengineering, Graduate school of Engineering, The University of Tokyo**

共同演者：鄭雄一 1、2、佐久間一郎 1

1 東京大学大学院工学系研究科、2 東京大学大学院医学系研究科

昨今の国家戦略において医療技術の開発は急務と位置づけられており、とりわけ医療機器開発と上市のスピードアップが求められている。機器の開発から実用化に至るまでには多くの課題が存在し、その背景には使用者と開発者の意思疎通不足が大きく関わっていると考えられる。大学における医工連携体制の整備は、この問題を解消する一助となる可能性がある。

東京大学では、医工連携拠点内に、医療技術評価実験室 (Medical technology evaluation laboratory) を整備した。ハイブリッド手術室と同等の面積に血管撮影装置を備え、ブタを最大とする中型動物の実験が可能な手術実験室を設計し、手術実験室周囲には、機器の組み立て等ワークの可能なドライラボ、洗浄評価のできる中材設備、血液等管理の必要なサンプルを用いた実験のための生化学実験室を配置し、開発から使用評価まで総合的な実験を行うことが可能である。

この施設において医師主導あるいは開発者主導のいずれの実験についても実施することが可能である。特に使用者となる臨床視点の意見が開発側へとフィードバックされることは、特定の技術の成熟のみならず、関係者の意識向上をもたらすと考えられ、物心両面において技術革新のスピードアップを促すと期待される。